

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 重要文化財である旧米沢高等工業学校本館の中にある「タカラコーナー」にて、だっこちゃんを手に穏やかに微笑む佐藤さん。誰もが一度は手にしたタカラ歴代の玩具が多数展示されており、楽しさと懐かしさに溢れている。

2 タカラコーナーに展示されている歴代のリカちゃん人形。一番左側が初代リカちゃん、一番右側が5代目。時代とともに顔や体型が少しずつ変化しているのが印象的で、思い出のリカちゃんと対面することができる。

3 昨年からの講義を行っている佐藤さん。心の教育を重んじ、「起立、礼」という大学では珍しい光景で授業が始まる。ものづくりから企業経営まで、人生の成功者である大先輩の講義に耳を傾ける学生たちの表情は真剣そのもの。

「だっこちゃん」や「リカちゃん人形」を生んだおもちゃの王様は、生涯現役の尊敬すべき大先輩。

信念の成果

佐藤安太 玩具総合メーカー 株式会社タカラ 創業者

リカちゃん人形や人生ゲームなど、誰もが知っている玩具の定番を世に送り出した「タカラ」の創業者・佐藤安太氏がわが山形大学のOBであることを知る人は意外に少ないのではないだろうか。2001年に77歳で社長職を退任した後もNPO法人の理事長を務めるなど、さまざまな方面で現役として活躍中の85歳。しかも、佐藤さんは現在、山形大学理工学研究科ものづくり技術経営学専攻博士課程に所属し、学位論文および学術論文を執筆中の大学院生であり、昨年からは工学部の2年生を対象とする講義の教壇に立つ先生でもあるのだ。「倫理工学システム思考技術」という新しい教育システムを開発し、心の教育を重視しながら成功する考え方を伝授している。

佐藤さんが米沢工業専門学校化学工業科（現山形大学工学部）に入学したのは戦時中のこと。当時、石油開発や製油が国としての重要課題であったことから、お国のために応用化学の勉強をするようにと学校の先生に勧められての進学だった。しかし、ほどなく学徒動員で郡山市の化学工業工場働くことになり、そこで空襲に遭い、周囲の人々がほとんど命を失うという惨劇を目の当たりにする。その後の人生で折に触れ、自分が九死に一生を得たことの意味を考え続けたという。終戦後は上京し、サラリーマンとしてさまざまな職業を体験。その後、山大時代の先輩の指導を受けて昭和28年に「(株)タカラ」の前身となる「佐藤ビニール工業所」を設立し、山大で学んだビニールの加

工技術を基にレインコートや財布、ベルトなどのビニール製品を製造。昭和35年には社名も「タカラ」と改め、子供用プールやビーチボールなどのビニール玩具を作るようになっていた。そしてあの一世を風靡したビニール玩具「だっこちゃん」の誕生へと繋がる。さらに、その後もリカちゃん人形や人生ゲーム、チョコQなど、大ヒット商品を次々と世に送り出し、「おもちゃの王様」と呼ばれるまでになった佐藤さん。悲惨な戦争体験があったからこそ、人々に夢や希望を与える玩具づくりを指向したのかもしれない。ビジネスの第一線を退いた今も悠々自適の老後を選ばず、地域や後生のためにと奔走する姿には頭が下がるが、同時に、我々の大先輩であることを誇りに感じて大いに胸を張りたい。